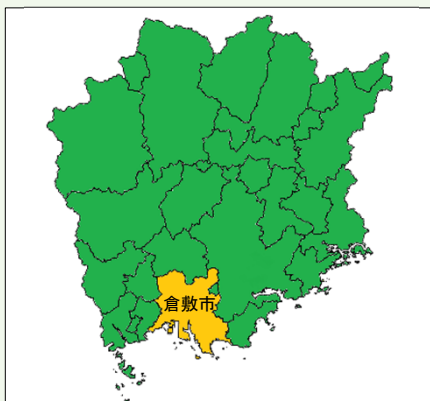


## 位置図

岡山県倉敷市



## 取組地域の概要

- (一級水系) 高梁川水系高梁川流域  
(二級水系) 倉敷川水系倉敷川流域他
- 市内平地部の大半が市街化区域指定
- 平成23年台風12号では、多数の床上浸水等の被害が発生。平成30年7月豪雨では、河川堤防が決壊し、大規模な浸水被害が発生（農業関連の被害額は約75億円）
- 浸水被害の軽減・防止を目的として、降雨が予測される場合、農業用水の取水停止、樋門開放等による農業用水路の事前排水を実施（令和3年3月高梁川流域治水プロジェクトに位置付け）

## 取組内容・効果

- 市内の農業用水路では、従前から周辺地域や下流域の内水氾濫を軽減する目的で、事前排水を行っていたが、平成20年代以降は都市化の進行やゲリラ豪雨等の影響で用水路からの溢水による浸水被害が増加。
- このため、市は農業用水路の事前排水の取組を強化し、大雨だけでなく中小規模の降雨が予測される場合にも事前排水を実施。
- 降雨が予測される場合に、高梁川笠井堰からの取水停止や水路下流の樋門の開閉操作を行い、用水路の水位を低下させることで流入する雨水の貯留能力を高め、浸水被害の軽減・防止を図っている。



玉島地区 関係者連絡会議開催状況

玉島地区では、年1回、地区住民が連絡会議を開催して事前排水の開始・終了のタイミング等について、協議を実施のうえ決定。

高梁川笠井堰から取水する主要幹線用水路網（高梁川流域の例）



用水管理組合等による樋門操作



用水路の事前排水前

←事前排水前の水位



用水路の事前排水後

水位を約1.0m低下

市内の農業用水路（平地部総延長約1.5km）の水位を1.0m低下させた場合、約300万m<sup>3</sup>の貯水容量の確保が可能